

## 地域を誇れる「いのちの教育」の推進

### テーマ 「砂防林を支えてきた地域の先人の想いを受け継ごう」

中学3年生対象 総合的な学習の時間と道徳

ねらい①庄内浜の砂防林整備活動を通して、つながる命の大切さや保護する大変さなどを実感させる。  
ねらい②砂防林を守る先人の取り組みを通して、自利利他の精神を基本とする公益の心を理解させる。

#### 学習1 総合的な学習の時間「砂防林整備活動」

白砂青松・・・生徒にとっては単にそこに存在する自然

→天然自然ではない

(原生林は雑木林→戦国時代に伐採→砂漠化→飛砂の害→先人の努力)

→価値ある存在としての砂防林：意味づけ

#### 学習2 道徳「佐藤藤蔵の想いとは？」

なぜ植林に生涯を捧げたのか・・・報酬や名声には無縁

→未来に生きる人々を支える礎になろうとすること：価値観の変容

#### 地域を誇れる「いのちの教育」とは

- (1) 地域の良さを知る・・・価値あるものを作り出し、維持してきた先人の素晴らしさを知る
- (2) つながるいのち・・・人々の想いに気づき、大切に受け継ごうとすること
- (3) 日常での気づき・・・日常の生活の中にもある。どんな地域にもある。
- (4) 絶対的価値はない！？・・・自然豊かな遊佐町が必ずしも絶対的価値ではない。
- (5) 愛郷心！？・・・一生、遊佐町で暮らしたいという生徒だけが素晴らしいのではない。
- (6) プロジェクトX・・・商工業のさかんな町にもそれぞれの価値がある。

#### 終わりに

受け継がれる思い・・・寒風の中の砂防林整備  
・昇降口の門松に...

# 地域を誇れる「いのちの教育」の推進

「いのちの教育」推進部会研究報告書 実践事例

## 1 実践テーマ

### 「砂防林を支えてきた地域の先人の想いを受け継ごう」

総合的な学習の時間・道徳 遊佐町立遊佐中学校 第3学年対象 指導者 新関広志

## 2 指導のねらい

- ①庄内浜の砂防林整備活動を通して、つながる命の大切さや保護する大変さなどを実感させる。
- ②砂防林を守る先人の取り組みを通して、自利利他の精神を基本とする公益の心を理解させる。

## 3 これまでの生徒の様子（砂防林に関する意識調査）：当該学級回答数（学年全体回答数）

- Q1 小学校時代に砂防林整備に何回参加しましたか。  
A1 0回：20名（101名） 1回：13名（26名） 2回：0名（13名）  
3回：0名（9名） それ以上：1名（13名）
- Q2 小学校時代に砂防林整備に参加した理由は何ですか。（複数回答可）  
A2 小学校の行事だから：13名（60名） 個人的に興味があったから：0名（0名）  
友人に誘われたから：1名（1名） 家族に誘われたから：1名（3名）  
その他：0名（0名）
- Q3 中学校入学後に砂防林整備に何回参加しましたか。  
A3 0回：1名（9名） 1回：32名（150名） 2回：1名（1名）  
3回：0名（1名） それ以上：0名（0名）
- Q4 中学校入学後に砂防林整備に参加した理由は何ですか。（複数回答可）  
A4 中学校の行事だから：33名（154名） 個人的に興味があったから：0名（0名）  
友人に誘われたから：0名（0名） 家族に誘われたから：0名（0名）  
その他：1名（2名：職場実習）
- Q5 クロマツがすべて人間の手で植林されたものであることは知っていましたか。  
A5 知っていた：26名（128名） 知らなかった：8名（32名）
- Q6 クロマツの植林を行った人が誰か知っていましたか。それは誰ですか。  
A6 知っていた：16名（82名：佐藤藤蔵）  
知らなかった：18名（78名）
- Q7 今後、また機会があれば砂防林整備活動に参加したいと思いますか。  
A7 参加したい：20名（96名：環境や生活を守りたい・みんなのためになる・楽しい  
気持ちいい・やりがいがある・想いを受け継ぎたい 等）  
参加したくない：14名（62名：疲れる・かぶれる・虫が嫌・面倒くさい 等）

## 4 実践の特徴

- ①実際に砂防林整備に関わる人から植林の歴史と現在の課題について学び、生徒の関心を高める。
- ②地域に伝わる佐藤藤蔵祭を取り上げ、なぜ200年以上前の人物を現在も祀っているのかを考えさせることにより、砂防林整備にかける先人の思いを受けつごうとする姿勢を養う。

## 5 実践の流れ

| 学習活動（活動内容）       | 指導上の留意点・配慮事項   |
|------------------|--|
| 1 砂防林整備事前学習会（総合） | ・砂防林の必要性和植林の歴史、現在の問題点を学ぶ。<br>・砂防林整備活動の方法と注意点を学ぶ。         |
| 2 砂防林整備活動（総合）    | ・安全かつ意欲的に砂防林整備活動に取り組めるようにする。                             |
| 3 佐藤藤蔵の想いとは？（道徳） | ・働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って、<br>公共のために役立つことをしようとする態度を育てる。 |

## 6 本時の指導

(1) 主題名 佐藤藤蔵の想いとは? (4-〈4〉社会に奉仕する喜び)

(2) ねらい

働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役立つことをしようとする態度を育てる。

(3) 主題設定の理由

① 価値について

わたしたちは共生社会に生きている。今を生きるわたしたちを支えている先人たちがいたことに思いを至らせ、その努力や想いに気づき、受けつぐ意志をもたせたい。それがあれば、今を生きるわたしたちもまた、喜びを持って未来に生きる人々を支える礎となれるに違いない。社会奉仕や公益の心とは、自利利他の心であると言える。自分にも相手にも社会全体にも利益をもたらすこと。自分を生かし、相手を支え、社会に役立つ喜び。それは結果的に自分を成長させ、自尊感情を高めることにもつながる。社会奉仕を通して、自己存在感や有用感を感じられる生活の素晴らしさに気づかせたい。

② 生徒について 男子19人 女子15人 計34人

生徒たちは男女問わず仲良く、和やかな雰囲気のある学級である。優しく、穏やかで、人への気遣いのできる生徒が多い。しかし、清掃や給食などの当番活動には必ずしも積極的ではなく、自分の役割を機械的にこなすだけの生徒も多く、働く喜びやみんなのために役立つことの喜びを実感してはいないようである。これまで本校では、道徳講話として学年ごとに地域の偉人を取り上げ、その生涯から先人の努力を知り、想いを受け継いでいこうとする学習が行われてきた。また、インターンシップとして海岸清掃や地域巡り、職場実習など、地域に学び、地域に参加する活動も行われてきた。本校は町立の学校であり、生徒自身も遊佐町に愛着を持ち、将来もこの町で生活したいという意識は強い。本時の指導により、これまで行ってきた奉仕活動や地域学習に意義を再認識するとともに、今後、自分の個性や能力を生かし地域社会の役に立つことを喜びと感じられるようになってほしいと考えている。

③ 資料について

ア 資料名「佐藤藤蔵の想いとは？」

今なお、その功績が顕彰され、地域の偉人として崇敬の対象となっている佐藤藤蔵の生涯を資料化し、「彼がなぜ植林に生涯を捧げたのか」を中心発問に据える。その上で、家産をすべて失い、多大な借財を重ねつつもあきらめず、子孫にも植林を厳命したことを知らせる。それにより、生徒の単純で一面的な理解や意識を揺さぶり、彼の強い想いに共感させることができるのではと考えた。

イ 『いのちのブック p.16～17』:「庄内人の誇り～公益の心～」

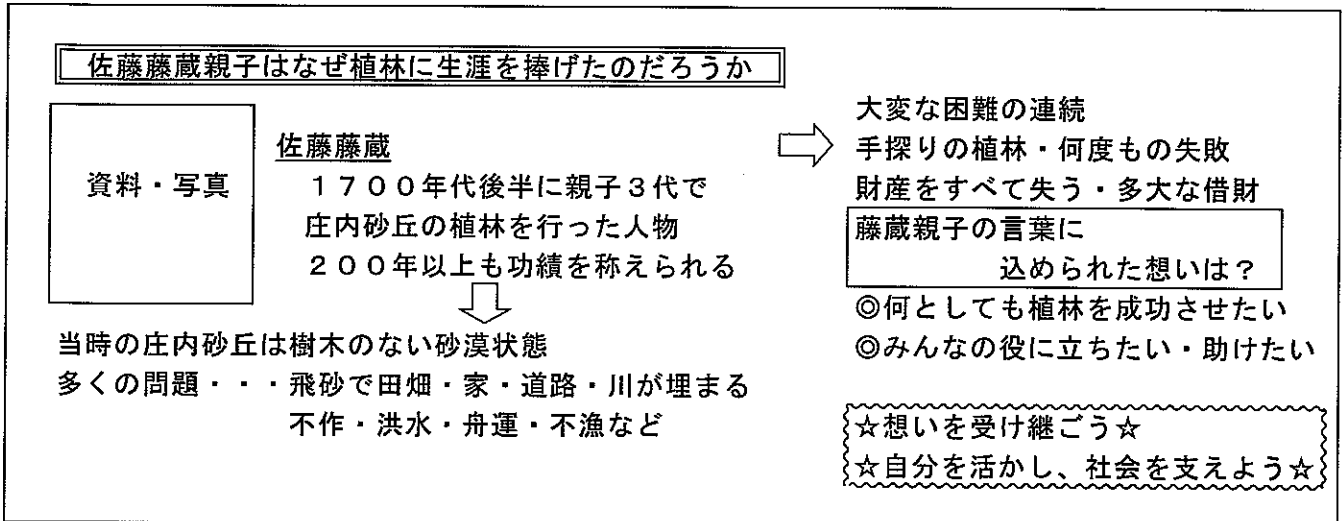
(4) 他教科・他領域との関連

総合的な学習の砂防林整備活動と関連づける。元々、砂防林整備活動は単なる奉仕的な活動ではなく、1年時の海岸清掃、2年時の職場実習とともに、インターンシップとして行われてきた活動であり、地域に参加し、自分の生き方を考えるきっかけとする活動である。自分の生き方を考えることは、他人との関わりを考えることであると思う。また、地域に参加するとは、自分を支えてくれている地域の人々に気づき、その思いを受け止め、受け継ごうとすることに他ならない。本時の道徳学習により、そのことを生徒自身が明確に意識できたとき、砂防林整備活動も本来の意義を持ちうると考える。そして、今後は、自らの意志で社会に関わり、自分の個性と能力を発揮しながら、他を支え活かしていくようになってほしいと考えている。

(5) 本時の指導過程

| 過程  | 活動内容  | 指導上の留意点  |
|-----|---|--|
| 10分 | <p>○基本発問 ◎中心発問 ◇指示 ・予想される生徒の反応</p> <p>1. 植林を行った佐藤藤蔵親子の生涯に対する関心を高める。</p> <p>○この写真は何の写真でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤藤蔵祭と石碑の写真。</li> </ul> <p>○何のためのものなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤藤蔵親子の功績をたたえる祭りと石碑。</li> </ul> <p>○200年以上たった今も称えられる彼らの功績とは、どんなものなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内砂丘の（遊佐地区の）植林を行った。</li> </ul> <p>○植林はなぜ必要だったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内浜は、樹木が少ない砂漠地帯で多くの問題を抱えていた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤蔵祭と石碑の写真を提示し、佐藤藤蔵親子の功績を現在も称えていることを知らせ、彼らの生涯に対する関心を高める。</li> </ul>   |
| 30分 | <p>2. 藤蔵親子の植林が困難の連続であったことに気づかせる。</p> <p>○彼らの植林は順調だったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西浜に植林を開始するが、全て失敗。</li> </ul> <p>酒田大火により生家を失うが、数日間の中断のみで植林を続ける。</p> <p>植林のため財産を全て失い、多大な借財を重ねる。</p> <p>親子3代、84年間で452万本を植えた。</p> <p><b>彼らはなぜ植林に生涯を捧げたのか。</b></p> <p>3. 藤蔵親子の言葉に込められた想いを考えさせる。</p> <p>○藤蔵親子の言葉にはどんな想いが込められているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植林にかけるとても強い決意。</li> </ul> <p>何としてでも植林を成功させ、継続していこうとする想い。</p> <p>4. 社会のために奉仕する喜びについて話し合う。</p> <p>◎なぜこれほど強い想いを持つことができたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人々が飛砂の害に苦しんでいたから。</li> <li>・みんなの役に立ちたいと考えたから。</li> <li>・植林に成功すれば、将来の子孫まで幸せになれると信じたから。</li> <li>・人の役に立つことが自分の喜びだったから。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤蔵親子の生涯を年表にして提示し、植林が大変な困難の中で行われたことに気づかせる。</li> <li>・佐藤藤左衛門の遺言と佐藤藤蔵が伝えた言葉を紹介し、それらに込められた想いを考えさせる。</li> <li>・彼らの想いについて話し合い、報酬や名声に関係なく、困っている人々を助けたい、社会の役に立ちたいという想いに共感させる。</li> </ul> |
| 10分 | <p>5. 先人の思いを受け継ぎ、地域社会の一員としての意識を高める。</p> <p>○現在の黒松林は、だれが植林したものだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1950年代以降に多くの人々の手で植林されたもの。</li> </ul> <p>○これまで砂防林を守り育ててきた人々へ手紙を書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂の害から私達の生活を守ってくれてありがとう。</li> <li>・皆さんの努力と想いを無駄にせず、受け継いでいきます。</li> <li>・砂防林整備は大変な作業ですが、やりがいのある仕事です。</li> <li>・町のためだけでなく、自分のためにも頑張っていきたいです。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の黒松林は、1950年代以降に植林されたものであることを確認し、多くの人々が地域社会を支えてきたことに気づかせる。</li> <li>・砂防林を守り育ててきた先人たちの想いに共感させ、自らも社会を支える一員として活動していこうとする意欲を引き出す。</li> </ul>  |

(6) 板書計画



資料1 庄内浜砂丘（樹木が少ない砂漠地帯）の抱えていた多くの問題

- ①飛砂のため田畑に砂が入り、土はやせ稲は細く不作となること。
  - ②砂丘に草木がないため魚が浜辺へ寄らず、不漁であること。
  - ③遊佐から酒田へと至る堀が飛砂で埋まり、米運搬の舟運に支障をきたすこと。
  - ④また、このため毎年、掘替え作業に多大な人数を要すること。
  - ⑤飛砂は家屋、田畑、街道を埋め、河川に侵入するほどの砂嵐状態だった。
  - ⑥日向川の河口は、飛砂によって埋まり一帯が滞水し、田畑が冠水すること。
- \* 1960年代でさえも、海岸に近い民家では、飛砂が家屋に飛び込んでくるために、冬に蚊帳を張って寝たり、傘をさして食事をしなければならないほどだった。
- \* 沿岸の集落に住む人々は毎朝、家の軒下を埋めた砂を木箱に詰め、海まで捨てに行ったり、何十回も往復しないと1日が始まらない。放っておけば家が埋まってしまう。実際に家屋が埋没し、引っ越しを余儀なくされた世帯もあった。

資料2 佐藤藤蔵親子3代の植林

佐藤藤左衛門は酒田の中町で酒造業を営む富豪。佐藤藤蔵は嫡子。

1745. 庄内藩による川北砂防計画に出願。  
庄内藩より西浜山に40町歩の土地を与えられる。
1746. 佐藤父子、西浜に植林を開始するが、全て失敗。  
その後も、風除けの簀垣の設置や様々な樹の苗を試植し続ける。
1749. 庄内藩から米7俵を賜る。
1751. 酒田大火により生家を失うが、数日間の中断のみで植林を続ける。
1752. 佐藤藤左衛門、病没。  
その後、佐藤藤蔵が遺志を継ぎ植林を継続。  
酒田の田畑・屋敷を全て売り払い、藤崎村に移住。  
植林のため財産を全て失い、多大な借財を重ねるが、困窮の中でも植林事業を継続。
1797. 佐藤藤蔵、病没。嫡子、藤五郎が植林を継続。  
親子3代、84年間で452万本を植えたという。

資料3 佐藤藤蔵親子の残した言葉

- ・「我死したる後、植え付けを怠らば子孫絶えるべし。  
我が霊、かの山にとどまりて、子孫の植え付けを守るべし。」 佐藤藤左衛門の遺言
- ・「一枝を折らば我が一指を折れ。一木伐らば我が一手を絶て。」 佐藤藤蔵が農民に伝えた言葉

# 佐藤藤蔵の想いとは？

月

日 ( )

年

組

番

氏名

1. 佐藤藤蔵ってどんな人？

2. 植林はなぜ必要だったの？

3. 植林は順調に行われたの？

4. なぜ植林に生涯を捧げたの？

(1) 彼らの残した言葉には、どんな想いが込められているの？

(2) なぜ、これほど強い想いをもつことができたの？

5. 砂防林を守り育ててきてくれた方々へ

## 資料1 庄内浜砂丘（樹木が少ない砂漠地帯）の抱えていた多くの問題

- ① 飛砂のため田畑に砂が入り、土はやせ稲は細く不作となること。
  - ② 砂丘に草木がないため魚が浜辺へ寄らず、不漁であること。
  - ③ 遊佐から酒田へと至る堀が飛砂で埋まり、米運搬の舟運に支障をきたすこと。
  - ④ また、このため毎年、掘替え作業に多大な人数を要すること。
  - ⑤ 飛砂は家屋、田畑、街道を埋め、河川に侵入するほどの砂嵐状態だった。
  - ⑥ 日向川の河口は、飛砂によって埋まり一帯が滞水し、田畑が冠水すること。
- \* 1960年代でさえも、海岸に近い民家では、飛砂が家屋に飛び込んでくるために、冬に蚊帳を張って寝たり、傘をさして食事をしなければならないほどだった。
- \* 沿岸の集落に住む人々は毎朝、家の軒下を埋めた砂を木箱に詰め、海まで捨てに行った。何十回も往復しないと1日が始まらない。放っておけば家が埋まってしまう。実際に家屋が埋没し、引っ越しを余儀なくされた世帯もあった。

## 資料2 佐藤藤蔵親子3代の植林

- 佐藤藤左衛門は酒田の中町で酒造業を営む富豪。佐藤藤蔵は嫡子。
1745. 庄内藩による川北砂防計画に出願。  
庄内藩より西浜山に40町歩の土地を与えられる。
  1746. 佐藤父子、西浜に植林を開始するが、全て失敗。  
その後も、風除けの簀垣の設置や様々な樹の苗を試植し続ける。
  1749. 庄内藩から米7俵を賜る。
  1751. 酒田大火により生家を失うが、数日間の中断のみで植林を続ける。
  1752. 佐藤藤左衛門、病没。  
その後、佐藤藤蔵が遺志を継ぎ植林を継続。  
酒田の田畑・屋敷を全て売り払い、藤崎村に移住。  
植林のため財産を全て失い、多大な借財を重ねるが、困窮の中でも植林事業を継続。
  1797. 佐藤藤蔵、病没。嫡子、藤五郎が植林を継続。  
親子3代、84年間で452万本を植えたという。

## 資料3 佐藤藤蔵親子の残した言葉

我死したる後、植え付けを怠らば子孫絶えるべし。  
我が霊、かの山にとどまりて、子孫の植え付けを守るべし。

佐藤藤左衛門の遺言

一枝を折らば我が一指を折れ。一木伐らば我が一手を絶て。

佐藤藤蔵が農民に伝えた言葉

## 7 生徒の変容

### ◇ 学習プリントの記述より抜粋

- ・砂防林がなければ、今の僕たちの幸せな生活はなかったと思う。今こうして幸せに暮らしていただけるのは、植林した人や、その松を守り続けてきた人がいるからだと思います。今度は僕たちが松を守り、次の世代に伝えていき、いつまでも砂防林が残っていてくれればいいと思います。ありがとうございました。
- ・砂防林を植え、守ってくださった方々がいてくださったおかげで、今の私の生活があります。小学生の時に3回くらい勉強させていただきました。勉強をする度にあなた方の心が伝わってきました。本当にありがとうございました。僕もまた、あなた方の一員に加わりたいと思います。
- ・今まで松の整備、手入れをしてくれてありがとうございます。今の僕たちの豊かな生活があるのは、佐藤藤左衛門さんをはじめとする、多くの方々の「松を守ろう」という想いがあったからこそ遊佐町が存在し、豊かな生活を送れてきたんだと思います。遊佐町の自然、人々の豊かな生活を守るために、松を守り育ててきてくれた方々に感謝しながら、これからは僕たちが、今の遊佐町を豊かにし、幸せな生活を送れるように伝えていきたいと思っています。

### ○ 成果

- ・上記の学習プリントの抜粋は、あくまでも代表的な例ではあるが、当該学級のすべての生徒が、砂防林整備に関わった先人への感謝を言葉にし、大半の生徒が、今後自分が遊佐町の自然保護に積極的に取り組みたいという意志を表明していた。したがって、庄内浜の砂防林整備活動を通して、つながる命の大切さや保護する大変さを実感させることと、砂防林を守る先人の取り組みを通して、自利利他の精神を基本とする公益の心を理解させることという本研究の2つのねらいが、ともに達成できたのではないかと考えている。なお、11月上旬の寒風吹きすさぶ中で行われた一般募集の砂防林整備活動に、当該学級から2名の個人参加生徒がいたことは、喜ばしい成果であったと思う。また、授業実践の中で、松を育てる大変さを知る庄内地方では長い間、門松を立てる習慣が定着しなかったことを伝えたのだが、後日、学校の昇降口前に飾られた門松に目をとめた生徒が、本物の松の若い枝を使っていることに疑問を感じて「松を大事にして欲しい」というつぶやきを漏らしていたことが印象的であった。

### ◆ 課題

- ・本実践研究では、砂防林整備活動の歴史と実践を題材としたが、自然保護を訴えることが本来のねらいではなく、つながる命の大切さや受け継いでいく大変さを実感させるための手立てであった。したがって、生徒に身につけて欲しい真の力とは、様々な活動の背景にある人々の想いに気づき、大切に受け継ごうとする姿勢である。それは何も特別な活動の中だけにあるのではなく、日常の活動～例えば、校舎の清掃活動や、毎朝の家族が準備してくれる食卓など～にもあるはずである。自分を取り巻き、支える様々な物や活動に、これまでに多くの人々の想いが込められ、受け継がれ、与えられ続けてきたことに気づけた時、「いのちの教育」は真の成果をあげたと言える。それに気づくことのできた生徒は、「いのち」を大切に守り、育て、次の世代へ受け継いでいこうとするであろう。そこには、イジメはなく、孤独も、無力感もなく、連帯と感謝と充実感に満ちた豊かな人生が広がっていることであろう。一人でも多くの生徒達に豊かな人生を歩む力を育てるため、今後も多様な題材を使いながら、「つながるいのち」に気づかせていきたい。